

アクモスグループの新鮮情報をお伝えするIRマガジン

# ACMOS HIGHWAY

アクモス ハイウェイ



## MESSAGE

### 「守りながら攻める」

新年度は安定収益の確保を重視し、  
出直しを図る

#### 第19期事業計画

- 減収でも収益の出る体制作り
- 基本方針
- 事業分野別の基本方針

#### 新シンボルマーク

- 新しいアクモスロゴができました

#### アクモスジャンクション

- グループ会社 新社長紹介
- 人を育てる ～人を育て、育てた人が社会に貢献できる企業でありたい～

2009  
AUTUMN  
05



ACMOS

人と技術と感動を

ITアーキテクト事業部は、  
お客様の経営戦略に不可欠な  
ITプロフェッショナルサービス  
を提供いたします。

お客様のビジネス戦略とITシステム開発の架け橋

## ITアーキテクト事業部

- ITソリューションラインナップ：IT基盤設計・構築、SI・ソフトウェア開発、システム運用・保守
- エリア：東京、神奈川、千葉、埼玉 ほか

お問い合わせ | ITアーキテクト事業部／TEL:03-3239-8139  
茨城本社営業本部／TEL:0120-88-2052 029-270-5555

アクモスグループ (2009年6月30日現在)

商号：アクモス株式会社  
設立：平成3年8月23日  
資本金：6億9,325万円  
社員数：連結365名(単体228名)  
URL：<http://www.acmos.co.jp/>

### ■主な事業

- ・ITソリューション
- ・情報処理
- ・検証・評価・認証
- ・コンテンツ
- ・人材紹介
- ・人材派遣(物流・施工)

## Contents

### 02 Message

## 「守りながら攻める」

新年度は安定収益の  
確保を重視し、出直しを図る。

### 05 事業概況

### 07 第19期事業計画

- 減収でも収益の出る体制作り
- 基本方針
- 事業分野別の基本方針

### 08 新シンボルマーク

- 新しいアクモスロゴができました

### 09 連結財務諸表

### 11 単体財務諸表

### 12 アクモスジャンクション

- グループ会社 新社長紹介
- 人を育てる

### 13 アンケート結果報告

### 14 株式の状況/役員の状況



代表取締役 社長  
飯島 秀幸

## 「守りながら攻める」

新年度は安定収益の  
確保を重視し、  
出直しを図る。

## 2009年6月期決算概況

### 減収、減益、過去最大の当期損失

当連結売上高は5,651百万円で前期比23.4%の減収となりました。全ての事業で景気後退の影響を受けましたが、特に人材派遣業と人材紹介業は、雇用環境の悪化の影響を強く受ける結果となりました。新規事業のエンジニア派遣事業が営業損失107百万円となったこともあり、人材事業は212百万円の営業損失となりました。一方、情報技術事業は営業利益259百万円となり、下半期の厳しい状況をコスト削減等でしのぎ、所期の目標を達成することができました。

主要2事業で結果に差が生じた理由ですが、情報技術事業では、顧客基盤を背景にストックビジネスの要素を活かすことができた反面、人材事業では、景気の影響をそのまま受けるフロービジネスの要素が強かったために、需要減を引き金にマイナススパイラルに陥ってしまい、売上の減少を回避できなかったためだと考えております。

以上の結果、連結営業損失は108百万円となりました。当連結会計年度末に子会社株式等の投資勘定の評価を見直した結果、のれん代の減損85百万円、持分法による投資損失241百万円及び投資有価証券評価損9百万円が加わり、連結当期純損失は469百万円と創業以来最大の損失となりました。



## 配当方針について

### 第18期無配。安定配当の実現のため単体事業を強化

残念ながら過去最大の当期純損失となったため、連結、単体でともに欠損金となり、株主配当の要件を充たす配当原資を確保することができませんでした。この結果、誠に遺憾ながら今期は無配となりました。

株主様から「継続的な安定配当の実現」を望むお声を数多く頂戴しております。私は、安定配当のためには、単体事業により安定的な収益を確保することが肝要だと考えております。単体事業基盤の強化のため、

2009年7月から東京地区の2つの事業部門を統合し、ITアーキテクト事業部<sup>\*</sup>を発足させました。開発、運用サービスとエンジニア派遣サービスを融合し、新たな体制でスタートしております。

第19期は、“減収でも安定した収益の出る体制作り”をスローガンに無理無駄をなくし、「安定収益から安定配当」、「配当性向連結利益の30%」という目標に向かって邁進していく所存であります。

※ITアーキテクト事業部については、5ページをご参照ください。

## 「守りながら攻める」方針の進捗と今後

### 減収でも収益がでる体制作りにチェンジ

私たちは、2009年初めから「守りながら攻める」方針に従って、まず、守りの面でいくつかの対策を実施してまいりました。資金面では、銀行借入を増やしました。2009年6月期末に有利子負債が増えたのはこのためですが、将来的な資金需要への備えを強化した結果です。人材面では、年初来の経済環境を踏まえ、新卒採用・中途採用共に採用活動を取りやめました。収益面では、固定費の削減を断行し、利益率の低い受注にも耐えられるよう努力いたしました。

攻めの面では、この逆境下では新たな顧客の獲得は困難と判断して、既存顧客への深耕を図りました。将来の景

気回復を見据えて顧客訪問数を増やし情報収集に努め、「チャンスがあれば打って出る体制」を整備しております。

2010年6月期（第19期）のアクモスグループ指針の中でグループ社員に伝えているのは、自らの強みと弱みを検証し、「強い事業分野に資源を集中」という攻めの方針です。また、「減収でも収益が出る体制作り」にチェンジすることを守りの方針としております。

会社の持続的な成長のためには、社員の成長が欠かせません。こういう環境だからこそ、人材を育て、適材適所の配置に努めるよう徹底してまいります。

# 20周年に向かって

## 19期 グループ営業力強化、出直しの年。20周年への布石を打つ

来年、アクモス株式会社は設立20周年を迎えます。私は、2010年6月期（第19期）が、20周年につながる重要な1年になると考えております。

連邦経営を経営方針として採用した1999年以来、アクモスグループは右肩上がりの売上増加を前提として、情報技術事業分野と人材事業分野でプロフェッショナルなサービスを提供するグループとして成長してまいりました。

現在の経営環境に適応するため、「選択と集中」により事業分野を絞ろうと考えています。当社のITソリューション事業を主軸とする情報技術事業を中核にしながら、スピード感を持って環境変化に適応し、社員の気持ちをチェンジし、この難局を乗り切ろうと考えております。

私どもは、「営業力強化」、「バランス力強化」にポイントを置き、第19期を「グループ営業力強化、出直しの年」と位置づけております。また、「選択と集中」、「スピードとチェンジ」をキーワードとしてこの1年間の事業活動を進めております。

私たちアクモスグループは、結果を悪化した社会や経済のせいにするのではなく、環境の変化に対応できるよう自らを変えることが課題だと認識しています。「自分を愛し、会社を愛し、仲間を愛し、仕事を愛し」信頼関係に基づき、協調してなすべき仕事をやり遂げることによって、お客様、株主様などステークホルダーの皆様と感動を分かち合えるよう努めてまいります。

### ▶ 業績ハイライト

#### 連結業績推移

(単位:百万円単位未満切捨 1株当たり情報を除く)

	第15期 (2006年6月期)	第16期 (2007年6月期)	第17期 (2008年6月期)	第18期 (2009年6月期)
売上高	3,438	5,706	7,376	5,651
営業利益	177	224	159	△108
経常利益	160	232	142	△122
当期純利益	91	59	△117	△469
1株当たり当期純利益(円)	853.52	580.87	△1,152.78	△4,740.36
総資産	4,057	4,341	3,905	3,465
純資産	2,263	2,367	2,175	1,597

(△は損失表示となっております。)

#### 連結・単体業績予想

(単位:百万円)

	2010年6月期 通期業績予想	
	連結	単体
売上高	5,000	2,400
営業利益	30	65
経常利益	19	55
当期純利益	0	50

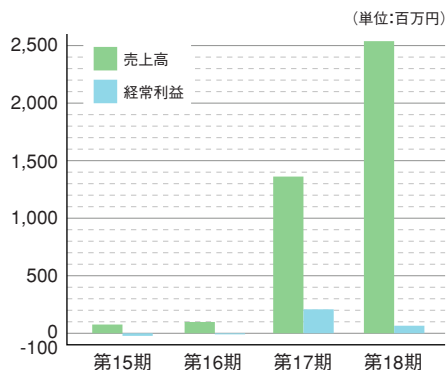
※予想数値は、2009年7月31日発表の業績予想に基づいております。経済状況等の環境変化によって修正される場合がございます。

## アクモス単体事業概況

### 当期のポイント

- 前期の合併効果により売上高前期比85.9%増（前期は旧茨城ソフトウェア開発（株）の業績を6ヶ月分取り込んでいるため）
- 減損等による特別損失により当期純損失を計上

### 単体業績推移



	第15期 (2006年6月期)	第16期 (2007年6月期)	第17期 (2008年6月期)	第18期 (2009年6月期)
売上高	77	96	1,359	2,526
営業利益(△損失)	△23	△18	131	42
経常利益(△損失)	△28	△11	206	70
当期純損益(△損失)	56	50	205	△357
1株当たり当期純損益 (△損失)(円)	587.42	498.19	2,019.16	△3,615.72
総資産	1,419	1,812	2,438	2,157
純資産	1,410	1,460	1,649	1,224

(単位：百万円単位未満切捨 1株当たり情報を除く)

### ITアーキテクト事業部発足

2009年7月1日付で東京地区（東京、神奈川、千葉、埼玉）における事業基盤強化を目的として旧テクニカルリソース事業部と旧東京開発センターの事業を統合、ITアーキテクト事業部を新設しました。お客様の要求に的確に応える整合性のとれた情報システムアーキテクチャの構築により、お客様のビジネス戦略とITシステム開発の架け橋となる優れた技術者を育成し、お客様の経営戦略に不可欠なITプロフェッショナルサービスの提供を目指していきます。

#### アクモス株式会社 ITアーキテクト事業部

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町三丁目23番地 神保町錦明ビル  
TEL:03-3239-8139 FAX:03-3239-2428



## 連結事業概況 (連結業績の推移については4ページをご参照ください。)

### 情報技術事業のポイント

売上高	3,223百万円
営業利益	259百万円

#### ■システム開発事業

総合電機メーカー及びそのグループ企業との取引を中心に、厳しい環境下で安定した受注を確保し、売上高2,304百万円、営業利益240百万円となる。

#### ■テストング事業

上半期はUSB規格認証が比較的堅調に推移したものの、下半期の景気悪化に伴い売上が大きく落ち込み、売上高326百万円、営業利益9百万円となる。

#### ■情報処理事業

個人情報漏洩事故の影響はあるものの、大口案件を確実にこなし堅調、売上高393百万円、営業利益33百万円となる。

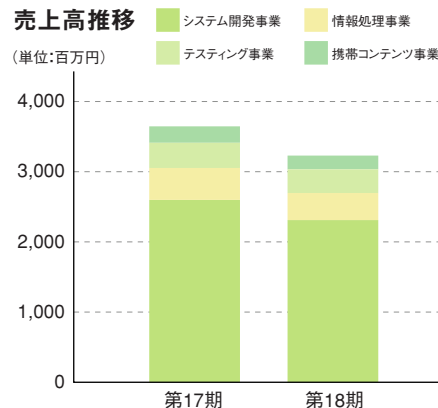
#### ■携帯コンテンツ事業

ユーザー数減少傾向、課金方法の見直しを行うものの業績は低迷、売上高198百万円、営業損失22百万円となる。

※システム開発事業の2008年6月期の業績は、アクモス(株)と旧茨城ソフトウェア開発(株)の合併に伴い、15ヶ月間の業績となっております。  
 ※システム開発事業は、第19期よりITソリューション事業に名称変更となります。

#### 売上高推移

(単位:百万円)



### 人材事業のポイント

売上高	2,470百万円
営業損失	212百万円

#### ■人材紹介事業

企業の採用抑制の影響で売上が低迷、売上高317百万円、営業損失52百万円となる。

#### ■軽作業派遣事業

大手派遣会社の事業廃止により新規顧客獲得するも、既存顧客に対する売上が大幅に減少、支店統廃合やリストラ策を講じるものの売上の減少をカバーできず、売上高2,002百万円、営業損失50百万円となる。

#### ■エンジニア派遣事業

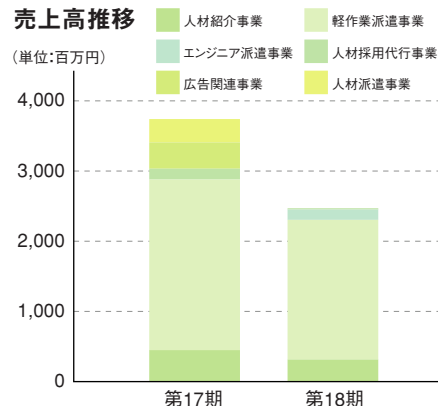
事業開始と景気悪化のタイミングが重なり、営業による新規開拓が事業計画を大きく下回ったため、売上高146百万円、営業損失107百万円となる。

※エンジニア派遣事業は、2009年7月からシステム開発事業と統合してITソリューション事業とし、情報技術事業のセグメントといたします。

※人材採用代行事業は、2008年8月31日付で事業から撤退しております。  
 ※(株)エスピーシー(広告関連事業)は、2008年6月16日付で持分法適用会社となっております。  
 ※(株)メリト(人材派遣事業)は、2008年1月30日付で売却しております。

#### 売上高推移

(単位:百万円)



## 減収でも収益の出る体制作り

第19期 通期業績予想(2009年7月1日～2010年6月30日)

	連結		単体	
	19期予想	18期実績	19期予想	18期実績
売上高	5,000百万円	5,651百万円	2,400百万円	2,526百万円
営業利益 (△損失)	30百万円	△108百万円	65百万円	42百万円
経常利益 (△損失)	19百万円	△122百万円	55百万円	70百万円
当期純利益 (△損失)	0百万円	△469百万円	50百万円	△357百万円
1株当たり当期純利益 (△損失)	0円00銭	△4,740円36銭	515円49銭	△3,615円72銭

※19期予想数値は、2009年7月31日発表の業績予想に基づいております。経済状況等の環境変化によって修正される場合がございます。

## 基本方針

### 無理無駄のない体制作り

- 会社のリソースを総点検、適材適所な人材配置と無理の無い行動をとる

### 管理部門の連携・統合

- 社内の管理部門連携、グループ会社との管理機能の連携・統合に注力、効率よい有機的統合を目指し、実務的な調整を進める

### お客様との信頼関係強化

- お客様が必要とするサービスをタイムリーに提供する

### 人材の育成

- プロフェッショナルとしてスキルを磨くため、研修制度を充実させる
- 的確な判断力をつけるため、自分の頭で考えることができるトレーニングを行う

## 事業分野別の基本方針

### 情報技術事業

- 需要減に対応し、攻守のバランスの取れた体制を構築
- ITソリューション、情報処理、テストング、携帯コンテンツの有機的連携を図る

### 人材事業

- 軽作業関連事業  
物流・メディア等に特化、専門性を高めて黒字化を実現
- 人材紹介事業  
お客様との信頼関係の強化により収益構造を再構築

### 戦略的M&A、業務提携

- 有望な事業会社については、戦略的なM&Aにより連結対象となる企業を取得していく
- 対象企業については、以下3つの基本条件を重視、対象企業の収益力、成長性を勘案して選定する
  - 1) 専門サービス事業会社であること
  - 2) 経常利益基準で黒字であること
  - 3) コンプライアンスを重視した経営の透明性



## 新しいアクモスロゴができました

2008年、アクモス株式会社が事業持ち株会社となったことを契機に、アクモスグループの企業理念が制定されました。そして、アクモスグループの全員で共有していきたい価値観につながる“想い”を一つのマークとして表現するため、アクモスグループの

### 企業理念

アクモスグループの持続的成長を実現し、事業活動を通じて社会に貢献するために、アクモスグループの一人ひとりが共有すべき方針と価値観を定めたものです。

#### ■事業領域

「プロフェッショナルサービス事業」

“お客様の期待値を超える専門的なサービス事業”と定義しています。

#### ■事業コンセプト

「プロフェッショナルサービスプロバイダー」

専門性を有し、お客様の期待値を超えるサービスの提供を担う人・企業を表すキーコンセプトです。

新しいシンボルマークが生まれました。樹木の5つの葉で「責任」、「協調」、「誠実」、「創出」、「成長」という5つの価値観を表し、中央には、ACMOSの“A”と、アクモスグループにとって最も重要な価値観「感動」を樹木の幹に見立て表現しています。

### 経営理念

「私たちアクモスグループは、お客様に感動していただけるプロフェッショナルなサービスを提供いたします。」

#### ■プロフェッショナル

私たちは、お客様のニーズの変化に柔軟に対応する力を培い、一人ひとりがプロフェッショナルとしての使命感を持ち、常にお客様の期待値を超える最適なサービスを提供します。

#### ■感動

私たちは、お客様の感動を一人ひとりの喜びとする心を持ち、アクモスグループのプロフェッショナルサービスを通じて、多くの感動を創出いたします。

### 5つの価値観 ー行動指針ACMOS5ー

目的: 私たちは、お客様と強い信頼関係を築き感動をともにします。

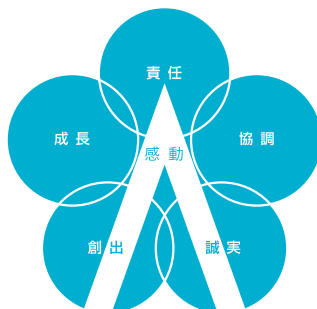
Accountability [責任]

Collaboration [協調]

Mind [誠実]

Output [創出]

Stretch [成長]



### ■アクモスのシンボルマーク



## ■連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	第17期 2008年6月30日現在	第18期 2009年6月30日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	2,535,029	2,568,573
固定資産	1,370,010	897,318
有形固定資産	307,182	293,572
無形固定資産	600,999	438,611
投資その他の資産	461,828	165,134
<b>資産合計</b>	<b>3,905,039</b>	<b>3,465,892</b>

(単位:千円)

科目	第17期 2008年6月30日現在	第18期 2009年6月30日現在
<b>負債の部</b>		
流動負債	1,116,932	1,224,303
固定負債	612,654	644,050
<b>負債合計</b>	<b>1,729,586</b>	<b>1,868,353</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	693,250	693,250
資本剰余金	1,252,050	1,252,050
利益剰余金	46,422	△453,075
自己株式	△16,810	△53,911
株主資本合計	1,974,912	1,438,313
評価・換算差額等	△608	△727
少数株主持分	201,148	159,952
<b>純資産合計</b>	<b>2,175,452</b>	<b>1,597,538</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>3,905,039</b>	<b>3,465,892</b>

## ■連結損益計算書

(単位:千円)

科目	第17期 自 2007年7月1日 至 2008年6月30日	第18期 自 2008年7月1日 至 2009年6月30日
売上高	7,376,709	5,651,435
売上原価	4,841,652	3,651,051
<b>売上総利益</b>	<b>2,535,056</b>	<b>2,000,383</b>
販売費及び一般管理費	2,375,407	2,108,527
<b>営業利益(△損失)</b>	<b>159,649</b>	<b>△108,143</b>
営業外収益	22,630	31,176
営業外費用	39,792	45,702
<b>経常利益(△損失)</b>	<b>142,486</b>	<b>△122,670</b>
特別利益	60,730	1,225
特別損失	205,284	356,932
<b>税金等調整前当期純損失</b>	<b>2,067</b>	<b>478,377</b>
法人税、住民税及び事業税	101,677	24,480
法人税等調整額	56,544	1,663
少数株主損失	43,155	35,383
<b>当期純損失</b>	<b>117,133</b>	<b>469,138</b>

### ポイント解説 <資産の部>

主にのれん及び投資有価証券の減損により、総資産は3,465百万円となり前期より439百万円減少。

### ポイント解説 <負債、純資産の部>

<負債> 主に長期借入金の純増により負債合計は1,868百万円となり、前期より138百万円の増加。

<純資産> 主に当期純損失469百万円及び利益剰余金の配当30百万円により純資産が1,597百万円となり、前期より577百万円減少。

## ■連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	第17期	第18期
	自 2007年7月1日 至 2008年6月30日	自 2008年7月1日 至 2009年6月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△14,653	37,489
投資活動によるキャッシュ・フロー	△32,338	△15,536
財務活動によるキャッシュ・フロー	78,984	173,181
現金及び現金同等物の増加額	31,991	136,019※
現金及び現金同等物の期首残高	1,332,675	1,364,667
現金及び現金同等物の期末残高	1,364,667	1,500,686

### ポイント解説 <キャッシュフロー>

税金等調整前当期純損失に対し、のれんの償却及び減損、持分法による投資損失265百万円など、支出を伴わない損失が多額であり、営業CFは37百万円の収入。また主に金融機関からの借入金の純増により財務CFが173百万円の収入。期末の現金及び現金同等物は1,500百万円となり、前期に比べ136百万円の増加。

※子会社の連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額59,114千円を含む

## ■連結株主資本等変動計算書 (自 2008年7月1日 至 2009年6月30日)

(単位:千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
2008年6月30日残高	693,250	1,252,050	46,422	△16,810	1,974,912
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			△30,354		△30,354
当期純利益			△469,138		△469,138
連結範囲の変動			△4		△4
自己株式の取得				△37,101	△37,101
株主資本以外項目の当期変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計	—	—	△499,497	△37,101	△536,598
2009年6月30日残高	693,250	1,252,050	△453,075	△53,911	1,438,313

(単位:千円)

	評価・換算差額等	少数株主持分	純資産合計
2008年6月30日残高	△608	201,148	2,175,452
連結会計年度中の変動額			
剰余金の配当			△30,354
当期純利益			△469,138
連結範囲の変動			△4
自己株式の取得			△37,101
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△118	△41,196	△41,315
連結会計年度中の変動額合計	△118	△41,196	△577,913
2009年6月30日残高	△727	159,952	1,597,538

## ■ 貸借対照表 (2009年6月30日現在)

科目	金額
資産の部	
流動資産	1,302,600
固定資産	854,556
有形固定資産	198,279
無形固定資産	5,175
投資その他の資産	651,101
資産合計	2,157,156

(単位:千円)

科目	金額
負債の部	
流動負債	619,395
固定負債	313,580
負債合計	932,975
純資産の部	
株主資本	1,224,908
資本金	693,250
資本剰余金	661,338
利益剰余金	△75,768
自己株式	△53,911
評価・換算差額等	△727
純資産合計	1,224,181
負債純資産合計	2,157,156

## ■ 損益計算書 (自 2008年7月1日 至 2009年6月30日)

科目	金額
売上高	2,526,307
売上原価	1,649,511
売上総利益	876,795
販売費及び一般管理費	833,880
営業利益	42,914
営業外収益	36,244
営業外費用	8,435
経常利益	70,724
特別損失	417,486
税引前当期純損失	346,762
法人税、住民税及び事業税	9,092
法人税等調整額	1,982
当期純損失	357,836

## ■ 株主資本等変動計算書 (自 2008年7月1日 至 2009年6月30日)

(単位:千円)

	株主資本					評価・換算 差額等	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計		
2008年6月30日残高	693,250	661,338	312,423	△16,810	1,650,200	△608	1,649,592
事業年度中の変動額							
剰余金の配当			△30,354		△30,354		△30,354
当期純利益			△357,836		△357,836		△357,836
自己株式の取得				△37,101	△37,101		△37,101
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)						△118	△118
事業年度中の変動額合計	—	—	△388,191	△37,101	△425,292	△118	△425,411
2009年6月30日残高	693,250	661,338	△75,768	△53,911	1,224,908	△727	1,224,181

## グループ会社 新社長紹介

この度、株式会社ジズスタッフ代表取締役役に就任いたしました波多野伸二です。私の使命は、前任の代表取締役 玉川（現：取締役）がこれまで取り組んできた「個人に依存せず、ビジネスモデルと組織で動く会社を作る」というテーマに沿って経営基盤の強化に努めるとともに、事業拡大と業績の向上を図ることにある、と強く認識しております。大役に身が引き締まり、責任の重さを痛感しております。今後は、経営トップとして全力を尽くし、アクモスグループの一員として企業価値向上に努めてまいりたいと存じます。ご指導ならびにご鞭撻のほどを、よろしくお願い申し上げます。



### 株式会社ジズスタッフ

■代表取締役／波多野 伸二 ■資本金／5,000万円（授權資本2億円） ■TEL／03-5287-2801 ■FAX／03-5287-1471 ■URL／<http://www.gstf.jp>  
 ■所在地／〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-4-15 三井生命ビル3F ■交通／JR山手線／営団東西線／西武新宿線 高田馬場駅より徒歩5分

## 人を育てる ～人を育て、育てた人が社会に貢献できる企業でありたい。～

2009年4月、アクモス株式会社に18名の新入社員が入社いたしました。新人教育として、例年通りのビジネスマナー研修や技術研修に加え、今年は新たにBMG（ベーシックマネジメントゲーム）研修を実施しました。BMG研修とは、一人ひとりが製造会社の社長となり、1つのテーブルを商圈（マーケット）として5～6社で競合し合いながら、3期にわたってビジネスシュミレーションを行うもので、その過程において企業の仕組みや利益構造を理解し、コストへの意識を持たせる

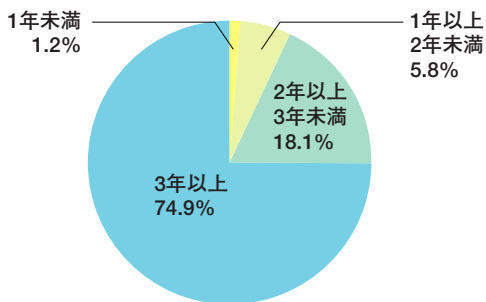
ことを目的としています。第19期は、基本方針4項目のうちの1つとして“人材の育成”を挙げています。「会社の財産は人材、人材には栄養が必要」という考えのもと、プロフェッショナルとしてのスキルを磨くために研修制度を充実させ、的確な判断力をつけるために自分の頭で考えることができるトレーニングを行うことが必要だと考えています。このような時期だからこそ、アクモス株式会社は心・技・体のそろった人材を育てることに注力していきます。



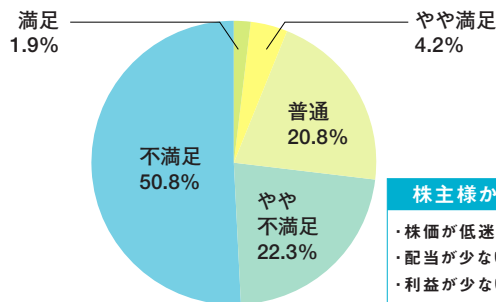
マネジメント・カレッジ株式会社主催 BMG（ベーシックマネジメントゲーム）研修



## 当社の株式の保有期間はどのくらいですか？



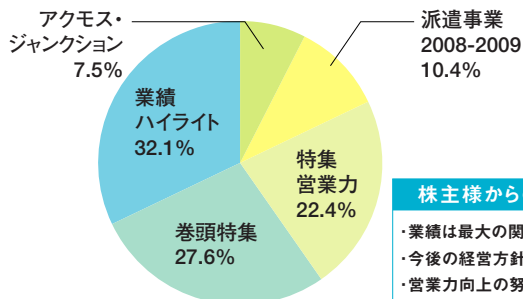
## 当社に対する投資の満足度を教えてください。



### 株主様からのご意見

- ・株価が低迷している
- ・配当が少ない
- ・利益が少ない

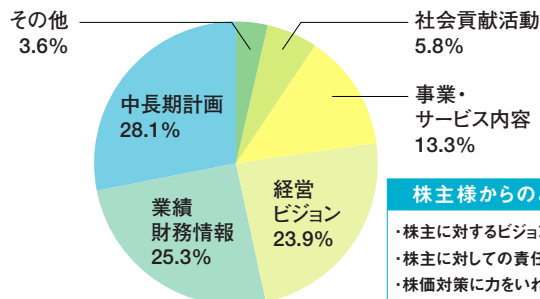
## 『アクモスハイウェイ』で興味をもたれた記事はなんですか？



### 株主様からのご意見

- ・業績は最大の関心事
- ・今後の経営方針が理解できた
- ・営業力向上の努力がわかった

## 当社に関して、もっとお知りになりたい情報は何ですか？



### 株主様からのご意見

- ・株主に対するビジョン
- ・株主に対しての責任の重さ
- ・株価対策に力をいれてください

## アンケートにご回答頂いた株主様へ フェアトレード商品をお届けしています。

アンケートにご協力いただいた株主様に、ピース ウィンズ・ショップの「コーヒー＆マスコバド糖かりんとう・ギフトセット」をお届けいたしました。コーヒーは東ティモール産、かりんとうに使われたマスコバド糖はフィリピンのネグロス島産、どちらも地域住民の自立支援を目的としたプロジェクトによるものです。この購入代金の一部は、特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンを通じて国際協力・災害支援活動などに活用されます。



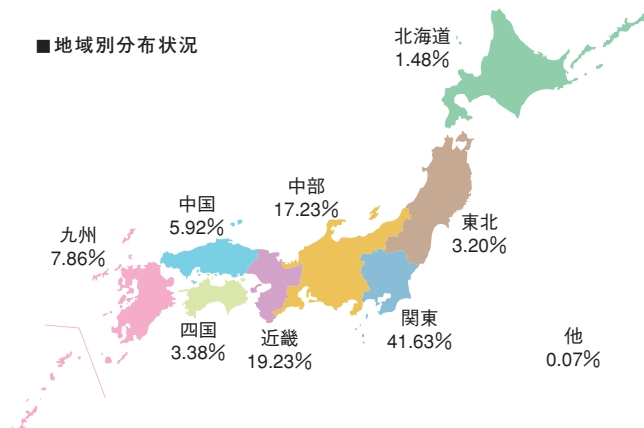
## 株式の状況 (平成21年6月30日現在)

- 発行可能株式数 323,000株
- 発行済株式総数 102,154株
- 議決権を有する株主数 4,056名
- 大株主\*

株主名	持株数
コンセーユ・ティ・アイ株式会社	19,050株
飯島秀幸	10,670株

\*自己株式を除く発行済株式総数の10分の1以上の株式を有する株主を記載しております。

## ■地域別分布状況



## 役員 の 状況 取締役・監査役・執行役員 (平成21年9月25日現在)\*

\*取締役及び監査役については、第18回定時株主総会終了後の状況を記載しております。

取締役	代表取締役社長	飯島 秀幸	執行役員	専務執行役員	佐藤 修一
	代表取締役副社長	檜山 秀夫		常務執行役員	上野 隆
	取締役相談役	宮本 治		常務執行役員	石川 稔
	取締役	金子 登志雄		執行役員	桑名 功
	取締役(社外)	柴田 洋一		執行役員	鈴木 伸昌
	取締役(社外)	倉井 康則		執行役員	深作 耕一
監査役	監査役(常勤)	荻原 啓一		執行役員	清川 明宏
	監査役(非常勤)	星野 隆宏		執行役員	中川 智章
	監査役(非常勤)	平野 喜久臣			

主な事業所	本社	〒101-0051 東京都千代田区神田神保町三丁目23番地神保町錦明ビル	TEL:03-3239-2377
	茨城本社	〒319-1112 茨城県那珂郡東海村村松2713番地7	TEL:029-270-5555
	つくば事業所	〒305-0045 茨城県つくば市梅園二丁目7番3号つくばシティビル6F	TEL:029-860-2021
	いわき事業所	〒970-8026 福島県いわき市平字菱川町4番9号菱川ビル4F	TEL:0246-21-6585
	ITアーキテクト事業部	〒101-0051 東京都千代田区神田神保町三丁目23番地神保町錦明ビル	TEL:03-3239-8139

## □ 株主メモ

### 事業年度

7月1日から翌年6月30日まで

### 定時株主総会

毎年9月下旬

### 公告方法

電子公告

[http://www.acmos.co.jp/ir/brief\\_note.html](http://www.acmos.co.jp/ir/brief_note.html)

(電子公告により行なうことが事故その他やむをえない事情によりできない場合には、日本経済新聞に掲載して行ないます。)

### 株主名簿管理人(特別口座の口座管理機関)

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱所

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

同取次所

三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

野村證券株式会社 全国本支店

## □ 株式事務関係のお問い合わせ

### ■お問い合わせ先・郵便物送付先

三菱UFJ信託銀行株式会社

証券代行部テレフォンセンター

電話0120-232-711(通話料無料)

受付時間 土日祝日を除く 9:00-17:00

〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号

■株券の電子化に伴い、株主様の住所変更、その他の各種お手続きについては、原則として、証券取引口座を開設されている証券会社等で承ることになっております。

■特別口座に記録された株式の各種お手続きについては、三菱UFJ信託銀行証券代行部テレフォンセンターにお問い合わせください。

## アクモスハイウェイ リニューアル

2009年秋号のアクモスハイウェイから、デザインを一新たにしました。これまで、秋には「コーポレートガイド」を、春には「アクモスハイウェイ」をお届けしてまいりましたが、今後は年2回「アクモスハイウェイ」をお届けいたします。



本社

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町三丁目23番地  
神保町錦明ビル

TEL:03-3239-2377 FAX:03-5275-2890



茨城本社

〒319-1112

茨城県那珂郡東海村村松2713番地7

TEL:029-270-5555 FAX:029-270-5531

[編集・発行] アクモス株式会社 経営情報管理部

[制作] ジャパン ストラテジック ファイナンス株式会社



アクモス 株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町三丁目23番地 神保町錦明ビル  
TEL:03-3239-2377 FAX:03-5275-2890 <http://www.acmos.co.jp/>



JASDAQ  
証券コード: 6888